

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第94号

## ななえ古写真物語

VOL. 94

### 大中山地名考

変わる街並み

昭和40年ころ?

大中山地区



七飯町には大中山という地区がある。天正4年(1576年)頃に草創したといわれる大川村と、安政年間に越後(新潟)の移民が開拓した中島郷が、明治12年に合併して大中山村になったのだ。合併後も、字名として大川と中島が残され、現在に至っている。

ところで、「大中山」という地名は、合併時にお互いの村の頭文字を組み合わせて誕生したと伝えられるが、なぜどちらにも含まれない「山」の文字が加わったのかは不明である。

このことについて、昭和51年に発行された『大中山四百年誌』では、「当時村中一帯に樹木が生い茂っていたこと、「大中山」では語呂が悪いので「山」をくわえたと思われる。」と推察している。なんとも軽い感じで「山」が加えられたような気もするが、平成になってから全国的に合併が進められた時に、これまでの歴史を顧みず、まったく新しい町名が公募などで決められていった例を思い出すと、時代が変わっても、命名の理由の深さはあまり変わらないのだろう。

ともかく、七飯町でも歴史の古い大中山地区ではあるが、当館で所蔵している古写真は、意外にも少ない。

そんな数少ない写真の中から紹介する一枚は、昭和40年頃の大中山地区の様子。国道5号から七飯本町側に向かって撮影されたもので、既に舗装されていることから、昭和36年以降であることがうかがえ(国道5号の舗装化は昭和36年にすべて成る)、写真を拡大すると道路左奥側に、ツルハシをかたどった道路標識が見受けられることから、昭和46年よりも前に撮影された(現在の工事中の標識は昭和46年以降に普及する)と思われる。

右手前には篠田商店の看板、その奥隣には小川クリーニングの看板が見られることから、撮影地点は現在のJA新はこだて大中山支店のあたりと考えられる。また、現在は大中山出張所のある場所には、物見櫓として使われた鉄塔が建っており、消防団があったことがうかがえます。今も残る商店を手掛かりに場所を特定すると、50年ほど昔と今では、街並みが様変わりしていることがわかるのが、古写真の面白さであり、資料としての価値だと思います。

「当時村中一帯に樹木が生い茂っていた」姿はそこにはないのですが、人々が暮らし変化していく街の姿を記録する重要性を改めて考えている今日この頃です。

## 2日

「夜の博物館」の前期講座の最終夜は、自然保護監視員の金澤氏を講師にお招きし、四季の見方についてお話し頂きました。

秋は白、冬は黒、春は青、夏は朱というように季節ごとに表現される色。その色彩感覚で綴られた歌を詠むことで、周辺を見る目が少し変わるのではないかと…。いつもながら、金澤氏の感性に学ぶところが多い内容で、きっと、参加者も白い秋を楽しもうと思われたことでしょう。



## 26日

ジュニア探検クラブで、リンゴジャムづくりに挑戦しました。七飯町のリンゴ栽培の歴史について学んだ後、歴史館で栽培しているたむら・祝・紅魁・ニュートンの4種類のリンゴを収穫し、種類別にジャムをつくりました。

リンゴの皮をむいて、細かく切り、グラニュー糖でサンドしながら鍋に入れ中火で煮ます。だんだんとリンゴの甘酸っぱい香りが立ち込め、ヘラで果肉をつぶしながら最後にレモン汁を加えて完成です。作ったジャムは試食をして、残りは瓶に入れてお土産にしましたよ。

## 27日

「ふぁみりーでいみゅーじあむ」で月見だんごづくりに挑戦しました。

まずは、秋の七草（おみなえし・すすき・ききょう・なでしこ・ふじばかま・くず・はぎ）について種類と覚え方を学んだ後、早速だんご作りです。上新粉と白玉粉をこねあわせて、小さくまるめた後、お湯でゆでて出来上がりです。出来上がっただんごは、10積みだんごにしたり、餡をつくったりして試食しました。

お月見に関する絵本の読み聞かせもしてもらい、おいしく「中秋の名月」を学ぶことが出来たのではないのでしょうか？



## 11月の予定

1	日
2	月
3	火 文化の日
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水 星空観察会
19	木
20	金 星空観察会予備日
21	土
22	日
23	月 勤労感謝の日
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土 ジュニア探検クラブ
29	日
30	月

11月の休館日はありません。

### リンゴジャム販売中です

今年も当館で育成しているリンゴを原料にジャムを作成しました。のりわずかですが、まだ販売しておりますので、ご希望の方は、事務室までお越しください。



### 編集後記 ~tawagoto~

ついこの間、周辺の山を歩いていた時のこと、強風が続いた影響からか、あたりの木々が、紅葉しながらも葉先が枯れているものが多く、また、枯葉となって既に落ちているものも多い印象を受けた。

今年は、あっという間に秋を飛び越え、冬が訪れるのだろうか？ カサカサと音をたてながら、あたりをあっという間に埋め尽くす枯葉と、自身の吐く息の色を眺めつつ、雪の気配を感じずにはいられない時間を過ごしてきた。（やまだひさし）

Richard ~ピチャリ~

第94号

平成27年10月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp